

心臓カテーテル治療 (PCI) とは

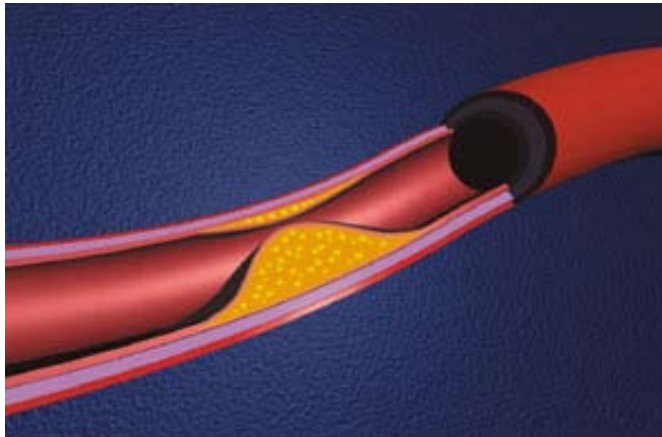
京都医療センター循環器内科

Ver. 20130220



正常血管

内腔は十分保たれています



動脈硬化による冠動脈狭窄

プラークという脂質の塊により**内腔が狭窄**し、血流が悪くなります。

PCIはなんの略？

経皮的 **Percutaneous**

皮膚を通して処置をする

冠動脈 **Coronary**

心臓に酸素や栄養分を送る動脈

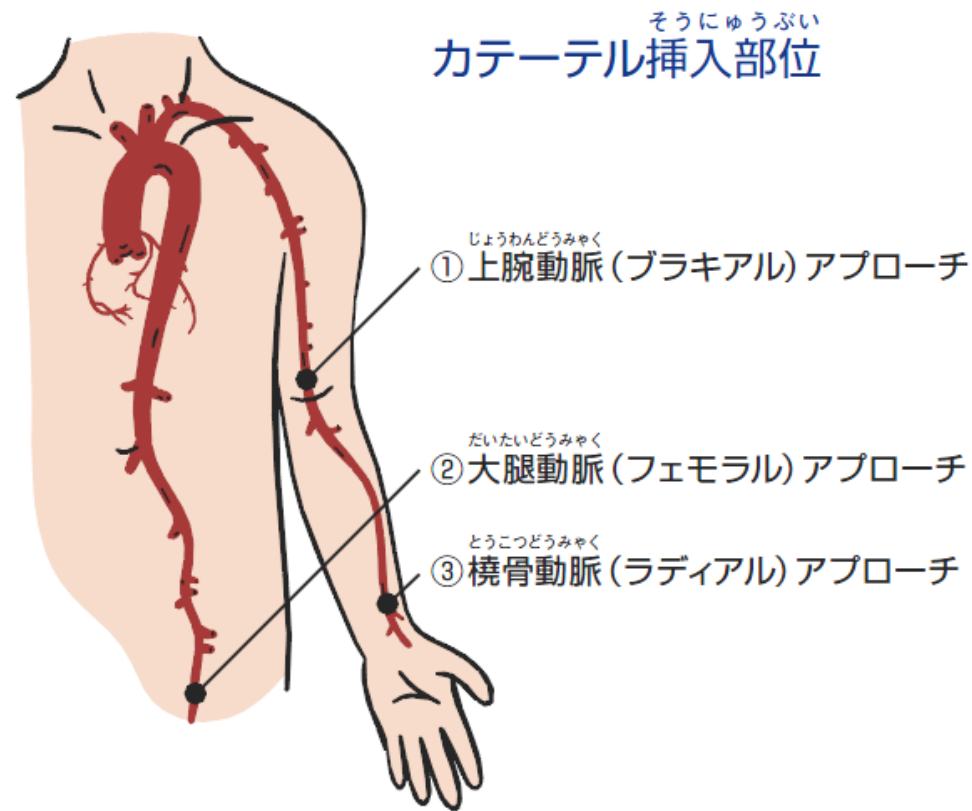
インターベンション . . **Intervention**

細い管（カテーテル）を介して治療する

風船やステントを使って狭窄を来たした冠動脈を広げて血流を改善させます。

カテーテル検査と同様に、局所麻酔の注射後に手首もしくは脚の付け根からシースという管を挿入します。

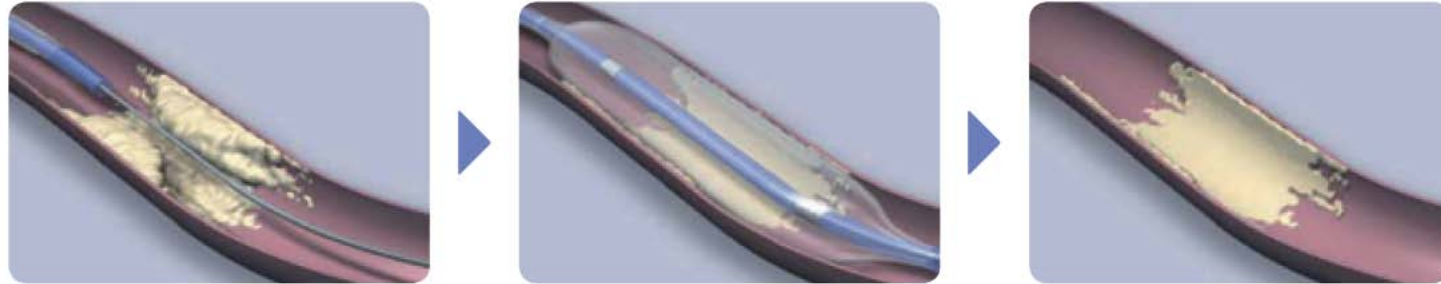
その後は挿入したシースからワイヤーやバルーン（風船）、ステントを冠動脈に挿入します。



シース

バルーン血管形成術

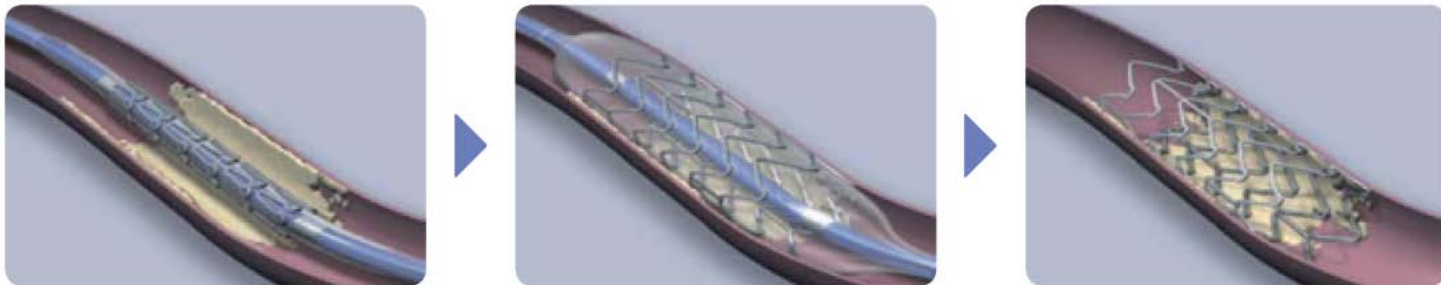
先端に特殊なバルーン（風船）が付いたカテーテルを冠動脈の狭くなった部位まで運び、バルーンを膨らませて冠動脈を内側から広げ、血流を確保します。バルーンはしぼんだ状態で体外へ抜き去られます。



冠動脈ステント留置術

冠動脈ステント留置術

ステントは金属製の網状チューブで、バルーン（風船）が付いたカテーテルに装着された状態で冠動脈の狭くなった部位まで運ばれます。バルーンを膨らませるとステントも広げられ、血流を確保します。その後、バルーンはしぼませた状態で体外へ抜き去られますが、ステントは広がったまま治療部位に留まり、血管を内側から支え続けます。



実際はレントゲンによる透視装置を見ながら治療
します



治療前



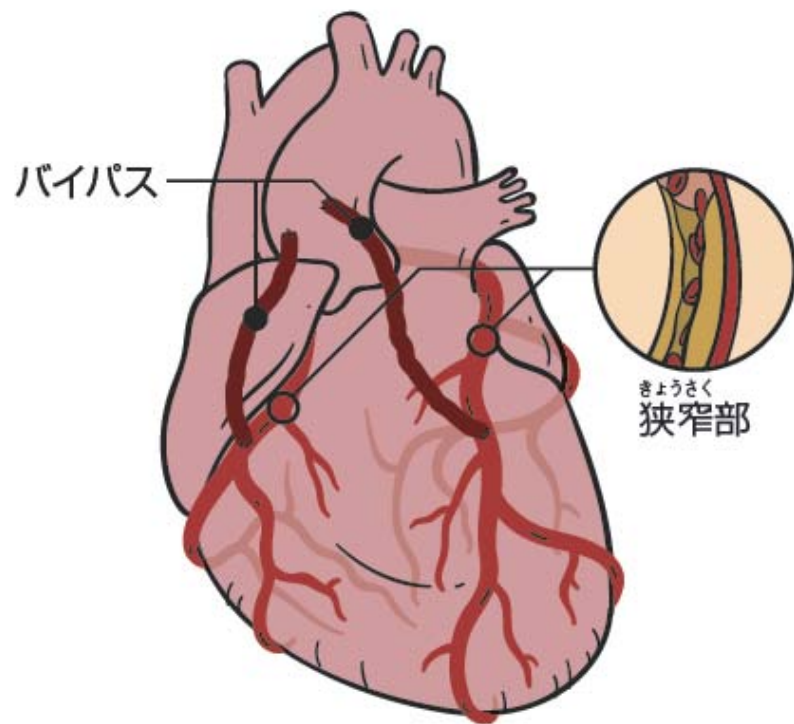
治療後

ステントは直径2.5-4.0 mm、長さ0.8-3.8 cm
ぐらいのサイズで、永久留置となります。



PCI以外の治療法は？

冠動脈バイパス術



狭窄・閉塞した冠動脈に、脚や胸などから取り出してきた血管をつなげ、迂回路（バイパス）をつくる外科的治療です。

全身麻酔下での開胸手術となります。

PCIに伴う治療合併症

- **死亡（約0.5%）**
- **急性心筋梗塞（約1.5%）**
- **冠動脈穿孔（0.2%未満）**
 - 風船による止血、必要があれば緊急手術等に対応
- **側枝閉塞**
- **脳梗塞（約0.1%）**
- **穿刺部血腫（特に鼠径部）**

当院での治療成績（2011年）

	PCI 総数	緊急例	予定例	慢性 完全閉塞	非慢性 完全閉塞
手技成功/件数	339/345	78/78	261/267	36/42	303/303
成功率（%）	98.3%	100%	97.8%	85.7%	100%

	死亡	緊急手術	心筋梗塞	脳梗塞	冠動脈穿孔	血腫
合併症件数	0	0	3	1	3	6
頻度（%）	0%	0%	0.87%	0.29%	0.87%	1.74%

予定の治療の**成功率は97.8%**

治療による**死亡、緊急手術は0%**でした。

ステント留置後の注意点

- **抗血小板薬**（血をさらさらにする薬）は自己中断しないで下さい。薬を中断するとステントが血栓で詰まって**心筋梗塞**になる危険性があります。
- 手術、抜歯、内視鏡等で他院で薬の中止を指示されても勝手に中止しないで**必ず主治医に相談**するようにして下さい。